

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホーム いずみの里		
所在地	札幌市白石区北郷2条1丁目4番32号		
自己評価作成日	平成 26年 7月 9日	評価結果市町村受理日	平成26年8月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=truer&JigyosyoCd=0170502389-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26年 7月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員はユニット目標である「笑い」の色紙をいつも目に触れるようにユニットの中心に掲げ、入居者さんが明るく、楽しく、笑いのある豊かな暮らしで「その人らしく生きる姿」を温かく確かな専門的知識と技術で支えながら、良い関係性・絆が築けて、安心して暮らして頂けるように心がけております。常に自己研鑽に努め、家族の一員であるとの想いで、食事もお茶の時間も一緒に過ごし、笑いのある一日を演出。不安や心配事、混乱などにも傾聴と関わりで気持ちが落ち着いて安心と笑顔が取り戻せるように、傍らに寄り添いながら生活を共にしております。認知症を正しく理解し気持ちを察するように、表出している部分だけでその人を捉えるのではなく、ご本人の気持やフィーリング、感情の交流を大切にしながら非言語的コミュニケーションも織り交ぜ関わっております。「大丈夫ですよ!」と優しい眼差しでこやかに語りかけ、毎日がゆったりとしたリズムで、安全に、安心して過ごして頂けるように、言葉で伝えられない辛さや戸惑いにも気づきと関心を寄せ、関わり、受け止め、見守り、待つ姿勢で、ご本人の力を信じるようにしております。できるだけ心に余裕を持ち、息抜きの工夫と、一人で抱え込まないようにチームで話し合い、知恵を出し合いながら実践を重ね、感性を磨き、「認知症の人」と人生を共に歩んでおります

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が「敬う心、尊厳ある暮らし」が基本理念であることを周知している。また 入口エレベーターホールの前にも掲げ、誰の目にもふれるようにしている。日頃からご家族、地域と連絡を密に取り、関係性の構築にも努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている催しものや行事、小学校での学校行事にも積極的に参加している。また ご案内やご招待を頂いた時は必ず参加するようにして、更に地域との交流を深めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への理解を深めて頂けるようにホームを何時でも開放、事業所主催の行事などへもご招待し、自然な姿、ありのままの生活に接して頂く様にしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催しご家族、地域包括支援センターの職員、民生委員や町内の方々へ運営やサービスの状況を報告させていただいている。話し合われた内容やご意見、アドバイスを日頃の運営に反映させ、サービスの向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	複雑事例や困難事例、疑義解釈等不明な点があればその都度、市の介護保険課や国保連、地域包括支援センター等へ問い合わせ、相談しながら解決の方向を探るようにしている。キャラバンメイト活動への協力等、協働・連携を大切にしている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せずに夜間のみ防犯上施錠している。身体拘束ゼロを維持するために掲示物や日々の申し送り等で意識付けを行っている。研修にも参加全体会議の席で報告。日頃のケアの振り返りや向上に活かし、尊厳に配慮した身体拘束のないケアを心がけている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や申し送りの際、意識付けを行うほかに、研修や勉強会を開催し話し合いの機会を持っている。事故報告・ヒヤリハット報告の記載で情報を共有し、原因究明、再発防止に向けた取り組みで虐待に繋がらないよう、防止の徹底に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性に応じてご利用者・ご家族に「成年後見制度」「任意後見制度」「日常生活自立支援事業」についての情報提供をしている。現在 法定後見補佐、公正証書作成にて任意契約、任意後見代理契約での支援を受けている方が数名おり活用が適切に図られている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学や面談等でご希望や心配事、不安、疑問点など伺い納得頂けるように十分話し合いを持っている。契約時には「重要説明事項」で再度、確認し合い納得、同意を得ての契約としている。契約解除の際もご希望に沿って相談に乗り、納得のいく方向性を模索し不安のない様にお手伝いしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お一人お一人のニーズに合わせたメッセージを感情や言語等から察し、理解し、安心して満足頂けるような関わりを心掛けている。また ご家族のご意見や要望を伺い、日々 対応の改善や運営に反映させている。エレベーターホールには御意見箱も設置してある		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何でも話しやすい雰囲気作りに努め、職員間の意思疎通が図れる様にしている。また 報告・連絡・相談を提唱して意見を運営に反映させている。毎月の全体・ユニット会議では職員の意見交換が行われ、これらも運営に反映されている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況に応じて評価され、モチベーションアップを図っている。また 向上心を持って知識、技術、経験に磨きがかけられるよう、楽しく働ける職場環境の整備にも努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加で学んできたことをレポート提出、全体会議での発表で全員への浸透、共有が図られている。また 学習トレーニングで学びの機会を作り、現場での実践に活かしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多くの職員が連絡会や勉強会に参加し交流が図れる様にグループホーム協議会に加入。交流やネットワーク作りを行っている。お祭りや発表会、文化祭等のホーム行事へもご招待、参加で情報交換やサービス向上へ反映させるように相互交流を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階からご本人にもホームを見て頂き、面談の際にもさりげなく観察や聞き取りで、安心して頂けるように、ぬくもりのある絆が作れるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階でセンター方式アセスメントシートへの記入をお願いし、過去の生活歴や暮らし方、ご苦勞や不安、心配事、ご希望、要望などを伺い、ご家族の生活も考慮しながら、ホームでの対応可能な範囲等もお話しさせていただき、これからの本人の人生を支えていく協働作業、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族との話し合いを通して、心配事、希望する生活を伺い、住み替えによる不安を最小限に配慮した設えや提案、事業所としてできる対応をお話して、安心して頂けるような対応を心掛けている。また 必要とする他の社会資源やサービスに繋げることも行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事を見極め一緒に洗濯物を干す、畳む、食器を洗う、拭く、また一緒に食材購入に出かけたり、畑の作業など、お知恵を拝借しながら共に楽しく生活し、笑い、学び支え合える関係を目指している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の不安や心配事に理解を示し、今までのご苦勞や介護の勞をねぎらい賞賛するようにしている。また ご家族の介護力にも学びながら、ご本人・ご家族の絆を大切にしながら共に支えて行く関係性作りを心掛けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出・外泊の支援、馴染みの人や場所、絆が途切れる事のない様に、継続的に交流が続けられる様に配慮した支援を行っている。また 電話の取り次ぎ、面会時間や機会の制限はせずに自由にして頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に目配り・気配り・心配りを怠らず、お一人お一人の個性やペース・リズムを尊重した関わりで、孤立したり浮いたりすることのない様に調整役となり、関係性が築けるように支援している。入居者さん同士がお互いに、温か豊かな関係となるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了していても、ご本人やご家族から相談があった場合は一緒に考え、情報提供や関係機関に繋げる等の支援、アドバイスで今まで同様にフォローし関係性を断ち切らないようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人がどうして欲しいか発する言葉や表情、仕草から感じ取り、ご本人らしい生活、また 自立支援できるようにケアプランに反映させている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関係者の方から情報収集したり、日常生活の中でも、どのように過ごしてきたか聞き取りや感じ取りで、把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の中で、ご本人がとった行動や会話などを24時間体制でアセスメント、生活記録シートに落とし込み職員全員が把握している。ケアに当たる際は、有する能力を尊重し、その方に合った関わりで、生きがいと満足できる生活となるように過ごして頂いている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く過ごして頂けるように、ご本人や職員全員、また ご家族や関係者と話し合いアセスメントやモニタリングの結果をもとに介護計画を立て実践。支援の結果は再度モニタリング、評価を行い次のプランに役立てている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人がその日その日をどのような様子だったかなどを個別の日常生活記録シートに記載、職員間で共有し、ケアプランに活かし実践に繋げている。また連絡ノート、受診ノートの活用で伝達・共有が図られ実践や方向性の統一、介護計画の見直しに活かされている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じた受診援助や外出支援、外泊支援など、必要に応じたサービスを、個別に柔軟に対応するようにして、安心と満足が得られるように取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内や周囲の企業等にもここに施設があることを認識してもらうよう、入居者さんが地域の一員であることを実感できるように、日頃から食材の購入や日用品の買い物、散歩、地域のイベントにも参加するなどして地域と繋がり生活者として協働に向けた取り組みを行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医だけでなく、ご家族が希望する病院や医師にも対応。ご家族の協力も得ながら、これまでのご本人のかかりつけ医との関係性を重視し適切な医療が受けられる様に支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師やホーム医の看護師とは気軽に相談することが出来、適切なアドバイスで医療が受けられる関係にある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	「介護要約」で情報提供し、安心して適切な医療が受けられる様になっている。治療終了後の方向性の検討は早い段階から本人、家族、医師、看護師、ソーシャルワーカーなど他職種の方々とも連携し、話し合い、カンファレンスにも参加させていただき、医療者との協働体制、関係作りがなされている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	相談の段階からホームの対応範囲について説明。入所時には「終末期及び緊急時に関する意見（意思）確認書」を取り交わし意思の確認をさせて頂いている。意向については随時変更可能な対応となっており状態の変化に応じて医師、ご家族と相談しながら地域の関係機関を利用		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すぐに対応できるよう救急救命講習への参加、初期対応訓練等を行っている。また 定期的に全体会議を開催し学習会や情報共有を行うことで実践力を高めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え、年に2回、防火・防災・避難訓練を実施している。職員全員が避難誘導方法を習得出来ており、町内会加入で、地域の協働体制も整っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者、お一人おひとりに合わせた声かけ、プライバシーを尊重した関わりを普段から心がけている。人間として尊厳ある暮らしを保障、平等な対応を行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望、意思をくみとるために普段からコミュニケーションを積極的にとるようにしている。また 何げない一言や表情、行動の中から思いに気づく様に意識的関わりで、自己決定できるよう働きかけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	快適で豊かな日常生活が送れるように、個々人に合わせたペース、リズムを大切にしている。職員側の都合等が入居者さんの生活に影響しないように意識した関わり、ご本人本位、ご本人中心の生活リズムとなるような支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が気持ちよく生活できるよう身だしなみが整っているか確認している。体温調整やお好きな色、デザイン等にも配慮し、気候やお出かけなどその場に合ったおしゃれができるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランスの他に、日常の会話の中から好みや食べたい物を把握し献立に活かしている。季節感も取り入れ彩良く食欲がそそるような工夫と一緒に盛り付けしながら会話し、楽しく食卓を囲み、美味しい食事となるように演出。食後の片付けもできる部分をお願いしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を個人記録に記入、必要量が確保できるように職員間で情報を共有しながら支援している。代替食、補食、経口栄養剤を医師の処方提供、低栄養や脱水に気をつけ、飲料もご本人の習慣や嗜好に合わせて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一部介助、全介助、仕上げ磨きなどでご本人のできる力に合わせた支援としている。義歯は毎日の洗浄の他に定期的に洗浄剤を使用し除菌。歯科医師、衛生士による訪問指導を受け、口腔機能低下防止や改善に向けた取り組みで清潔保持を図っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけや誘導は個々人の排泄リズムを把握して、できるだけトイレで行えるように支援している。パットやリハパンは排泄パターンに合わせた種類とし、昼間は布パンツと併用する等で漏れや失敗のない様に、自立に向けた支援、オムツはずしの取り組みを行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や繊維質の多い食品の提供、適度に身体を動かし運動量を確保することで自然排便に繋がるように取り組んでいる。排泄に向けた努力を行っても自然排便がなく便秘傾向の時は、医師に相談し緩下剤の使用で便秘解消を図っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回を目安に声かけし意向を確認。拒否があっても時間を置いたり他職員に変わって声かけする等で個々人に合わせた対応としている。自ら希望される場合もあり、見守りや部分介助しながら昔話や唄なども飛び出し入浴を楽しんで頂いている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方から夜にかけては活動を控え就寝に向けてのリズムを整えている。足浴を勧めたり不安で眠れないときは温かい飲み物を用意し、寄り添い傾聴。日中も離床と臥床（休息）のバランスを図りながら安眠に繋がるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の投薬の目的や効果、副作用を理解し、指示通りに内服出来たかかの確認を全職員が行っている。普段の様子と違ったり、症状に変化が見られた時には速やかに報告、医師の指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の得意なことできる事を把握し役割創設。家事、買い物、水やりなどできる力を活かしたお膳立てで満足感や達成感、感動を日々共有している。日向ぼっこやお散歩、ドライブ、外出・外食行事等で気分転換も図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気が良い日は、散歩やドライブ、買い物など一緒にいけるように外出支援を行っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本的には家族が行っている。普段の買い物や行事等で使用するときは、ご本人の希望で使用できるように会社がお預かりし、現場でその都度、個別に支援を行っている、		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に添って、毎年の年賀状や普段でも手紙などが出せるような対応を行っている。また 電話をかけた取り次ぐなどの支援も行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り付けや装飾作りで季節感を味わえるように工夫している。室内の温度や照明、陽光の調節で穏やかに落ち着いて生活できるように配慮。心地よい音楽や懐メロ、ご飯の炊ける匂や野菜を刻む音などで家庭的で落ち着ける雰囲気、安心して居心地よく過ごして頂けるように心掛けている。玄関には珍しい野菜を飾ったり、お花を絶やさないようにして、ご本人、ご家族、来訪者との話題作りに活用している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルなどの配置を工夫し、お一人ひとりの居場所が確保できるように配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や身の回りの品を、ご本人ご家族と相談しながらご持参いただき、今までの生活に近い設えで安心して居心地よく過ごして頂けるように配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動が安全に行なえるように手すりを取り付けている。家具やソファの配置を工夫、夜間の照明等で安全に移動できるように、また 移動動線上には躓きや妨げとなるようなものは置かないように危険を予測し、安全に自立した生活が送れるように配慮している		